



精神科医 瀬戸 睿

「恋をしているの?」

ある寒い朝の診察でした。いつもは明るさをにじませている若い女性が少し沈んだ表情で「先生に相談したいことがあるんです」と切り出しました。「何なの?」と聞くと「実は私恋をしているんです」と恥ずかしそうに俯いて話し始めました。

会社での飲み会で知り合い、付き合いが始まってお互いに好きな関係となっていて、結婚しようかと

「お前は病気を持っているんだ、今はよくても出産や子育てをしなればならない。そんな大変なことが待っているし、それで病気が悪くなることもある。親としては反対だ、恋だけに留めなさい」と言われる。私はどうしたらよいのでしょうか?との相談でした。

皆さんならどう答えますか?

『くおくれの風』(越谷市の精神医療・福祉を考える会)では、今度『障がいがあっても恋したい!』という題で講演会を開きます。この大切な問いにどう答えたらよいのか、真剣に話し合います。どうぞ(参加下さい)。

質問

50歳の会社員です。父が脳梗塞になったことがきっかけで、母がうつ病と診断されました。精神科でかなりたくさん種類の薬を処方されて飲んでいきます。母はこれまで薬を飲むことがあまりなかったこともあり、体調が良くないと言っています。医師に話すところ、薬を飲まないで、精神状態が不安定になって病状が悪化すると言われました。薬は対処療法のように思っています。

相談の回答

うつ病と言われたらそうですが、うつ病でも個々人かなり違いがあり、一括りにして薬も違ってくると思います。しかし、たくさん種類の薬を飲ませる必要はありません。

それに薬だけで治るものでもありません。まず誘因となった事情を医師と本人、ご家族でよく話し合い、どう対処すればよいのかを考えることをお勧めします。

家族などの周りの人の支えも大事です。薬をたくさん出す医師も信用しない方がよいでしょう。

障がいがあっても恋したい!

東洋大学教授 講演会  
白石弘巳氏 パネルディスカッション  
2017年3月12日(日)  
会場 越谷市中央市民会館4F会議室  
12時開場 13時開演 入場料500円  
主催 くおれの風  
問い合わせ 南埼玉病院(担当:高瀬)  
電話:048-965-4712 Mail:kuohre@yahoo.co.jp



医療法人社団 俊睿会

南埼玉病院

精神科・神経科・心療内科・デイケア

越谷市増森252 URL <http://www.minamisaitama.com>

☎048-965-1151